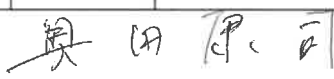

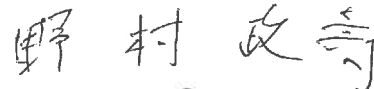





審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 2969 号	氏名	野田 悠
審 査 担 当 者	主 査	  (印)	
	副主査	  (印)	
	副主査	  (印)	
2. 主論文題目： High serum interleukin-34 level is a predictor of poor prognosis in patients with non-viral hepatocellular carcinoma (血清 IL-34 高値は、非ウイルス性肝細胞癌患者の予後不良測因子である)			

審査結果の要旨（意見）

近年増加している nonBnonC 肝細胞癌における予後規定因子を検討した重要な研究である。本研究で焦点とした血清 IL-34 値は従来肝線維化マーカーとして報告されてきたが、癌の発育、転移に関連する腫瘍関連マクロファージの誘導に IL-34 が関与しているという最近の基礎的報告を受けて、実際に患者の予後指標になりうるかどうかを検討した価値ある論文となっている。特に、B 型、C 型肝炎を背景としていないコホートでの検討は希少である。また、同じ線維化マーカーで、IL-34 と同様に肝細胞癌の予後に相関していると報告されている YKL-40 は、本研究では相関しておらず IL-34 と乖離をみせている。癌の発育、進展の病態解明につながる可能性もあり興味深い。今後の研究の発展により医学、医療分野への貢献は大きいものと考ええる。したがって、本論文が学位取得に十分価値のあるものと判断する。

論文要旨

IL-34 と YKL-40 は、ともに肝線維化と腫瘍増殖に関わり、いずれも NAFLD 患者の肝線維化との関連が報告されている。本研究の目的は、IL-34 および YKL-40 と非ウイルス性肝細胞癌(non-viral HCC) 患者の予後との関連を明らかにすることである。当院で診断された非ウイルス性 HCC 患者を対象とし、対象者を生存群と死亡群に分け、予後における IL-34 と YKL-40 の影響を多変量解析および random forest 分析、Kaplan-Meier 法で後ろ向きに検討を行った。多変量解析では、IL-34、腫瘍径、腫瘍数が独立危険因子であることがわかった。random forest 解析では上位から「腫瘍径」と「腫瘍数」に次いで「IL-34 値」が生死を分別する因子であり、Kaplan-Meier 法でも、高 IL-34 群は低 IL-34 群と比べ有意に予後不良であった。本研究により、IL-34 は腫瘍因子に次ぐ non-viral HCC 患者の予後因子であることが明らかとなった。